

第1章 ちんどん屋について

1-1 ちんどん屋とは

ちんどん屋とは、辞書によると「人目につく格好をして、三味線・太鼓・鉦などを鳴らしながら、にぎやかに町を練り歩き、宣伝や広告をする人」¹⁾となっている。

ちんどん屋は、依頼主（店主や代表者）から仕事を依頼される。ちんどん屋とは、依頼主（以下クライアント²⁾とする）と取り決めた時間内で宣伝活動を行う広告媒体である。

1-2 ちんどん屋の歴史

ちんどん屋は日本特有の職業である。その起源は江戸時代にさかのぼる。

1845（弘化2）年、大阪千日前において、飴売りの「飴勝」^{あめかつ}（図 1-1 参照）は、竹製の鳴り物と売り声で客を集め、飴を売った。この飴勝がちんどん屋の元祖と言われている。この当時、大阪、松屋町の寄席では、題目や講釈師の名を書いた紙を御番所と呼ばれる入り口部分に張って宣伝をしていた。しかし、貼り紙は町奉行に禁止され、客数が減少した。そこで、飴勝が街頭で寄席の宣伝を行った。飴勝の宣伝は大評判となり、飴勝は飴売りをやめて寄席の宣伝を商売とするようになった。この商売が、日本の広告代理業の始まりである。



図 1-1 飴勝³⁾

飴勝の商売を引き継いだのが、「勇亀」^{いさみかめ}であった。勇亀は、芝居の口上を真似て「トザイ、東西・・・」の台詞で口上を切り出した。これが元になり、1880～1881（明治13～14）年、関西ではこの商売を「東西屋」と呼ぶようになった。

1884年、大阪出身の東西屋であった秋田柳吉が、東京で「広目屋」^{ひろめや}と名づけて広告代理業を営むようになった。秋田柳吉は、東西屋の拍子や口上に加えて、吹奏楽団を用いて宣伝を行った。この楽隊入り広告（図 1-2 参照）は大成功し、関東では「広目屋」（図 1-3 参照）と呼ばれるようになった。現代では、マスメディアを通して宣伝されている商品が、当時は楽隊広告を使って大規模に宣伝された。



図 1-2 ライオン歯磨き楽隊宣伝⁴⁾/1897(明治30年)頃



図 1-3 広目屋の衣装⁵⁾

明治 40 (1907) 年頃から大正初期にかけて、楽隊広告は衰退していった。明治後期になると街頭宣伝に代わって新聞広告が広告の中心になっていった。さらに 1908 (明治 41) 年株の大暴落による不況が訪れ、街頭宣伝の仕事量が減少した。これに伴って人数も減少したため、街頭宣伝の編成が小規模化した。

現代に見られる、ちんどん太鼓と管楽器を用いた宣伝のスタイルは、大正末にはすでに出来上がっていたと考えられている。人手の節約のため、1人で複数の楽器を演奏できるように鉦と太鼓を組み合わせたものができたと考えられている。1930 (昭和 5) 年あたりから、ちんどん太鼓の「チンドン」という音を聞いた東京の人々が、広目屋のことを「ちんどん屋」と呼ぶようになった。それが大阪にも伝わって徐々に一般化していったとされている。

1929 (昭和 4) 年に、トーキー映画が初公開された。職を失った楽士がちんどん屋に流入してきた。大衆演劇の役者やサーカスの楽士なども流入した。

1941 (昭和 16) 年以降、第 2 次世界大戦の影響で、ちんどん屋が賑やかに歩ける状況ではなくなった。

ちんどん屋の全盛期は、1952 ~ 1960 (昭和 27 ~ 35) 年頃である。このころ、全国でちんどん屋は、数千人程存在したと言われている。

1955 年頃から、ちんどん屋が衰退していった。マスメディアの発達、交通量の増加、後継者不足などの要因が言われている。この時期に多くのちんどん屋が廃業し、数百人程に減少した。

1990 年前後から、若手がちんどん屋の活動に興味を持ち、次第に中心となって活動するようになっていった。

春には、富山で「全日本チンドンコンクール」が行われている。昭和 30 年に開始以来、毎年行われている。今年 (2004 年) で 50 回目を迎える。このコンクールは、ちんどん屋が舞台上で芸を披露し、それを審査員が評価するイベントである。ちんどん屋は 3 人 1 組になり、制限時間 4 分 30 秒の中で芸を披露する。富山の街中を歩く「チンドンパレード」や、素人ちんどん屋による「素人チンドンコンクール」なども行われる。



図 1-4 チンドンコンクールの様子 / 大阪「ちんどん通信社」のメンバー
(03/04/06 チンドンコンクールにて著者が写真撮影)



図 1-5 チンドンパレードの様子 / 大阪「ちんどん通信社」のメンバー：観客に手を振っている
(03/04/06 著者が写真撮影)



図 1-6 チンドンパレードの様子 / 福岡「アダチ宣伝社」のメンバー]
(03/04/06 著者が写真撮影)

夏には、ちんどん屋の有志による「ちんどん博覧会」が行われている。このイベントは、若手のちんどん屋が自主的に企画したもので、2000年から毎年行われている。全国からちんどん屋が集まり、芸が披露される。

毎年、場所や形態は異なる。昨年（2003年）は、東京浅草の「木馬亭」という芝居小屋で、8月26日～28日の3日間開催された（図 1-7 参照）。チケットが売り切れてしまい、中に入れないお客さんもいたほど、ちんどん屋は人気があった。一昨年（2002年）は、福岡の大宰府天満宮で、8月30日と31日の2日間開催された（図 1-9～10 参照）。外のステージで行われる予定だったが、台風が来ていたため、主に室内のステージで行われた。



図 1-7 第4回全国ちんどん博覧会の様子⁶⁾ / 東京浅草木馬亭にて



図 1-8 第3回全国ちんどん博覧会の様子 / 福岡太宰府天満宮内

(02/08/30 全国ちんどん博覧会にて著者が写真撮影)



図 1-9 第3回全国ちんどん博覧会の様子 / 福岡太宰府駅前：大阪のちんどん屋

(02/08/31 全国ちんどん博覧会にて著者が写真撮影)



図 1-10 第3回全国ちんどん博覧会の様子 / 福岡太宰府天満宮仲見世

(02/08/30 全国ちんどん博覧会にて著者が写真撮影)

1-2 ちんどん屋の仕事

ちんどん屋の仕事には、「街廻り」やイベントの「賑やかし」、ステージでの「ショー」などがある。

(1) 街廻りについて

「街廻り」とは、街中を移動しながら、宣伝活動を行うことである。楽器を演奏し、口上(宣伝文句)を述べながら街中を歩く。

街廻りは、通常3~5人程で行う。編成の軸となるのは、「ちんどん太鼓」(図1-11、1-12参照)と「楽士」(図1-13参照)である。

「ちんどん太鼓」は、ちんどん屋独特の楽器である。鉦(かね)・締太鼓(しめだいこ)・大胴(おおどう)の3つの打楽器を組み合わせたものが主流となっており、リズム部分を担当する。ちんどん太鼓の前に看板をつけることがある。太鼓に傘をつけることもある。

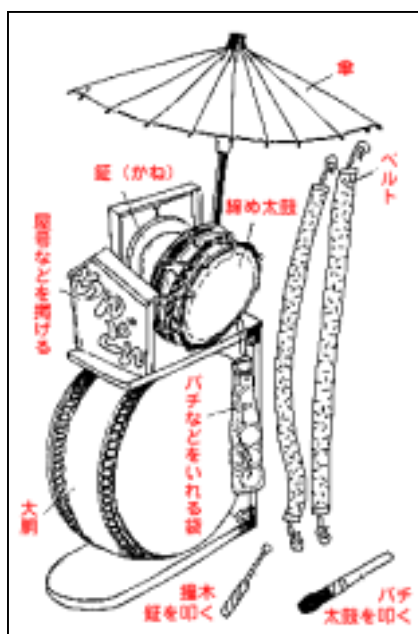


図1-11 ちんどん太鼓の説明
(ちんどん博覧会公式HP³⁾より)



図1-12 ちんどん太鼓 / ちんどん通信社のメンバー
(ちんどん普及委員会HPより02/07/20小松さん撮影⁷⁾)



図1-13 楽士 / クラリネット(03/07/10
東住吉区街廻りにおいて著者がビデオ撮影)

「楽士」とは、メロディーや伴奏を担当する人である。クラリネットやサックスなどの管楽器が主流であるがその他、アコーディオンやバンジョーなども演奏される。
楽士は、背中に看板をつけて歩く。

ちんどん太鼓と楽士の他に、「ゴロス」（図 1-14 参照）と呼ばれる大太鼓、「旗（プラカード）持ち」（図 1-15 参照）、「チラシ配り」（図 1-16、1-17 参照）などが加わる時もある。依頼店の人がチラシ配りを行う時もある。



図 1-14 ゴロス(ちんどん普及委員会 HP
より 02/11/09 小松さん写真撮影⁸⁾)



図 1-15 プラカード持ち
(02/11/14 大阪千日前周辺で著者が写真撮影)



図 1-16 チラシ配り(03/06/07 園田
街廻りにおいて著者がビデオ撮影)



図 1-17 ゴロスとチラシ配りを担当
(03/05/10 塚本街廻りにおいて著者
がビデオ撮影)

街廻りは、依頼店の前から出発することが多い。たいていは、ちんどん屋が経路を決めるが、クライアントが決める時もある。

ちんどん屋は演奏をしながら歩き、少し進んでは口上を述べる。四つ角や路地で人が出れば演奏を止めて、口上を述べる。仕事によって異なるが、1時間に1回程度休憩をとる。休憩場所は、道の窪みや自動販売機の前、地下道への階段などである。飲食店に入って休憩する時もある。

街廻りの様子を図 1-18、1-19 に示す。



図 1-18 街廻りの様子 / 依頼店前から出発したところ
(03/06/07 園田街廻りに関して著者がビデオ撮影)



図 1-19 街廻りの様子 /
子供がちんどん屋についてくる
(03/05/10 塚本街廻りに関して著者がビデオ撮影)

図 1-18 の手前から順に、ちんどん太鼓、ゴロス、楽士(クラリネット)、チラシ配り(このときは風船を持っていた)である。依頼店の前から出発した所である。図 1-19 は子供がちんどん屋についてきて、ちんどん屋と話をしている。

(2) 賑やかし・ショー

街廻りの仕事以外に、イベントでの「賑やかし」やパーティーの余興、ステージでの「ショー」などの仕事をするちんどん屋もいる。「賑やかし」とは、イベントやお祭りなどで会場を盛り上げる仕事である。「ショー」とは、ライブハウスや劇場などの舞台で行う興行のことである。

ちんどん屋の仕事の例として、大阪のちんどん屋「ちんどん通信社」の仕事を以下に示す。「ちんどん通信社」ホームページ⁹⁾上の「スケジュール」から 2003 年 12 月の仕事を 1 部抜粋したものである。

【日 時】12月12日(金)

【タイトル】京橋グランシャトー キャンペーン

【場 所】淀屋橋 周辺

【内 容】またまたやって来ました。愉快的五人組をご覧あれ。
<5名/ちんどん町廻り/>

【日 時】12月14日(日)

【タイトル】ダイエー堅田店・専門店街 歳末セール

【場 所】ダイエー堅田店

【内 容】年末、そして正月。なにかと物売りですね。
こんな時もダイエーで一気にお買い物！
<3名/ちんどんパレード/10:30~、12:30~、14:30~、16:00~>

【日 時】12月13日(土)14日(日)17(水)

【タイトル】尼崎三和本通り商店街 2003年歳末セール

【場 所】尼崎 三和本通り商店街

【内 容】毎年恒例現金つかみどり、今年もやります！
*セール期間は13日(土)~21日(日)
<3名/ちんどんパレード/11:30~、14:00~、15:30~>

【日 時】12月19日(金)~23日(火)

【タイトル】住江競艇 SG第18回賞金王決定戦 イベント

【場 所】住江競艇場 周辺 難波(20日、21日のみ)

【内 容】今年もやってきた賞金王決定戦！
期間中住江競艇では選手のトークショーや漫才、演歌のステージなど
いろいろな催し物が目白押しです！
<ちんどんパレード>

【日 時】12月20日(土)

【タイトル】葬祭式場 松永典礼会館 オープン

【場 所】福山市柳津町

【内 容】大抽選会や屋台コーナーなど、楽しいオープンイベントです！
<ちんどんパレード>

この例からわかるように、ちんどん屋は様々なクライアントから仕事を依頼される。

本研究では、ちんどん屋の仕事の中心である、街廻りによる街頭宣伝を取り上げる。

1-3 研究対象「ちんどん通信社」について

大阪市中央区上本町にある「ちんどん通信社」は1984年、林幸治郎氏（現東西屋社長）と赤絵真里子氏によって発足した。林幸治郎氏は、大阪のちんどん屋「青空宣伝社」で3年間修行後、大阪市西成区のアパートで開業した。1995年、社名を「ちんどん通信社」から「（有）東西屋」に変更した。有限会社「東西屋」の中のちんどん部門が、「ちんどん通信社」である。東西屋では、ちんどんによる街廻りや賑やかし以外に、タレント斡旋やキャンペーン活動など様々な業務を行っている。

東西屋には、現在（2004年1月）約23人のスタッフが在籍し⁹⁾、2002年度は900件以上の現場（ちんどん以外の仕事を含む）をこなしている²⁾。またCDやビデオを制作・販売している。年末には、ちんどんに加え、唄や舞踊、芝居、大道芸などを盛り込んだ興行を行っている（図1-20参照）。

東西屋は、全国のちんどん屋¹⁰⁾の中では大所帯である。東西屋のように有限会社として経営しているちんどん屋は珍しい。

海外遠征は20回以上行っている。図1-21は、1988年、ちんどん通信社初の海外遠征の様子である。ニューヨークにある日本系列のス・パーの宣伝である。

1999年には、ちんどん通信社初の自主海外ツアーを行った。図1-22は、アメリカ・メキシコツアーにおいて、ちんどんパレードの様子である。



図1-21 ニューヨークでの街頭宣伝の様子¹¹⁾
(1988年9月)



図1-22 メキシコでのちんどんパレードの様子⁶⁾
(1999年9月)



図 1-20 ちんどん通信社年末興行のポスター⁹⁾

第1章 脚注

- 1) 角川必携国語辞典,角川書店, p.897(1995)
- 2) ちんどん通信 16号,有限会社東西屋,p.16(2003)
この中で、ちんどん屋が依頼主のことを「クライアント」と呼んでいる。
- 3) 全国ちんどん博覧会ホームページ <http://www.chinpaku.com>
- 4) ライオン株式会社ホームページ <http://www.lion.co.jp/index2.htm>
- 5) 芸術新潮,新潮社,1989年12月号, p.26
- 6) 株式会社スタジオファルスホームページ <http://www4.osk.3web.ne.jp/~false/>
- 7) ちんどん普及委員会ホームページ <http://www.komatchan.com/>
ちんどん普及委員会の委員長である小松さんが撮影した写真である。複合ショップ「惣」の宣伝である。(ちんどん通信社、空堀商店街にて、2002年7月20日)
- 8) ちんどん普及委員会ホームページ <http://www.komatchan.com/>
ちんどん普及委員会に委員長である小松さんが撮影した写真である。誓文払いの宣伝である。(ちんどん通信社、2002年11月9日)
- 9) 有限会社東西屋ホームページ <http://www.tozaiya.co.jp>(1995)より
株式会社スタジオファルス作成
- 10) ちんどん屋の規定はなく、全国にいるちんどん屋の数は不明である。ちんどん屋の仕事としては、街廻りでの宣伝活動以外にパレードやパーティーでの余興など様々である。また音楽活動を中心に行うちんどん屋もいる。
- 11) 芸術新潮,新潮社,1989年12月号, p.27

その他参考文献

- ・相原進：ちんどん屋を通じて考える路上における-場-の創出,関西大学社会学部社会学専攻卒業論文(2002)
- ・相原進のホームページ <http://www2u.biglobe.ne.jp/~musasabi/> より
相原進：芸能によって作られる場 - ちんどん屋の街頭宣伝に関する分析をもとに -,日本ポピュラー音楽学会関西地区第2回研究例会(2002)
- ・国立音楽大学音楽学学科第18回研究発表会資料,国立音楽学学科(2002)
2002年11月15日、国立音楽大学講堂小ホールにて行われた「国立音楽大学音楽学学科第18回研究発表会」の際に配布された資料である。テーマはちんどん屋である。
- ・林幸次郎、赤江真里子：ちんどん屋です。、思想の科学社(1993)
- ・林幸次郎、赤江真里子：ぼくたちのちんどん屋日記,新宿書房(1986)
- ・堀江誠二：チンドン屋始末記,PHP 研究所(1986)
- ・第4回全国ちんどん博覧会公式ガイドブック,全国ちんどん博覧会実行委員会パンフレット委員会(2003)
- ・第2回全国ちんどん博覧会公式ガイドブック,全国ちんどん博覧会実行委員会(2003)

